

「8020運動の推進」の解説

1 スローガンについて

県民一人ひとりが豊かな生活を送ることができるように、その健康状態やライフステージに対応した歯と口の健康づくりの支援体制の整備・充実を図り、80歳高齢者の統計分析により歯の喪失が少なく、よく噛めている高齢者は生活の質及び活動能力が高く、運動・視覚能力が優れていることが明らかになっているため、80歳になっても20本以上の歯を保ち、一生自分の歯で食べることを目的とした「みやぎ8020プラン（宮城県歯科保健構想）」を県や市町村をはじめ保健医療機関・福祉関係者等が、それぞれの立場でお互いに協力しながら、目標の達成に向けた取り組みを行ってありますが、身近な目標として、まず、50歳で25本の歯を持ち、80歳で20本の歯を保つ8020（ハチマルニイマル）運動の達成を目指すものです。

2 現状について

【乳幼児期】

乳幼児期は、歯や口腔の発育期であり、乳歯のむし歯と永久歯のむし歯には強い関連が認められるなど、乳幼児期は歯口清掃や食習慣などの基本的な習慣を身につけるととても大切な時期ですが、近年の社会環境や食生活の変化を背景に、幼児でも歯周疾患、不正咬合、咀嚼機能の異常等が生じております。

【学齢期】

歯科健康診断等が実施されており、児童・生徒のむし歯対策については、一定の成果を上げていますが、甘味飲料の過剰摂取など生活環境や生活様式が大きく変化し、むし歯のみならず歯周疾患、不正咬合、遊びや運動中の歯牙破折等が増加しており、顎や顔面の正常な発育、咀嚼機能の発達にも影響を与えています。

【成人期・高齢期】

むし歯有病者のうち治療処置が完了した人の割合は、増加傾向にありますが、一人平均喪失歯数（永久歯）は、加齢とともに増加し、特に40歳以降で急増する傾向にあり、歯周疾患がその大きな原因となっています。歯周病と発生進行を防止するためには、定期的な健診及び歯石除去、歯面清掃をかかりつけ歯科医等のもとで受けることが大切ですが、初期のうちは自覚症状に乏しいため、歯周疾患についての関心はまだ低いようです。

3 目標値について

【3歳児の一人平均むし歯数】

全国平均と比べると1本以上多いという結果がでておりますが、むし歯等の地域格差是正のための指導やフッ化物の応用等による歯科保健事業を推進することにより1本以下を目標値としています。

	3歳児の一人平均むし歯数の年次推移					3歳児歯科健康診査結果	
	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
全国	2.42本	2.36本	2.16本	1.99本	1.88本	1.83本	1.67本
宮城県	4.13本	3.82本	3.59本	3.36本	3.08本	2.97本	2.76本

【80歳で20本以上歯を持つ割合】

県・市町村・関係機関がそれぞれ協力しながら8020（ハチマルニイマル）者の割合を国と同じ20%以上とすることを目標値としています。

『かかりつけ歯科医を持つ割合』

健康な歯を保持するためには、専門家による継続的なケアと指導を受けることが大切です。
平成11年保健福祉動向調査の結果、7割の人が歯や口は何らかの悩みを持っていることから、目標値を7割以上としています。

◇歯の健康の果たす役割

歯と口の健康を保つことは、単に食物を噛むということだけではなく「おいしく食べる」「会話を楽しむ」ことはもとより「若々しい表情を作る」など、高齢者のQOL（生活の質）とADLが高く、視覚機能が優れているという研究結果が示されています。

また、歯と口の衛生状態の改善や、咀嚼能力の改善を図ることは、誤嚥性肺炎（※）の減少や心臓血管疾患等の全身の疾患の予防につながることも明らかになっており、歯と口の健康を維持することは、介護予防・健康寿命の延伸につながるものです。

※誤嚥性肺炎…口の中の細菌などのついた食片等が、誤って気管から肺に入って起こる肺炎。高齢者は排出する反射が低下しているので起こり易い。高齢者の死亡原因上位の病気。

◇歯の健康概念図

